



赤嶺 雅和 議員

# 特定健診受診率と医療費の削減を問う

答 データヘルス計画を策定し取り組んでいる

**問** 特定健診受診率と医療費の削減を問う。

**副町長** 未受診者への訪問、電話等による受診勧奨に取り組んでいる。個々における健康づくりへの意識を高めていくことも必要だと考えている。町民が健康面に対して常に関心を持つことにより自然と受診率は上がると思う。保健師や栄養士が特定健診の結果に対して家庭訪問し指導している。

**問** 医療費の削減は進んでいるか。

**副町長** 国保の被保険者の減少により国保の医療費も減少傾向にある。

**問** 今年度から国民健康保険は県単位化となる。県も保険者となるが今までの本町の赤字部分の解消はどうなるか。

**民生部長** 累積赤字については平成29年度分まではそれぞれの市町村が解消して行く必要がある財政調整基金から

10億円の補填し、赤字解消していく。

**問** 医療費は減少に向かっている答弁だった。年々高齢化が進んでおり医療費はどんどん高騰して、医療費の削減につながるのか。

**民生部長** 国保の被保険者の減少により減ってきているが、一人当たりの医療費は平成27年度から28年度にかけては横ばい、それまではずっと上昇していた。これは本町だけにとどまらず、全国的な傾向である。生活習慣病の発症予防、重症化予防に向け本町もデータヘルス計画を策定し、保健師栄養士がしっかり取り組んでいる。実績としても糖尿病も重症化しないような取り組みを数年かけて行っている。平成26年度の健診受診者の中からこのままでは腎機能が重症化してしまう恐れのある19人に対し保健指導をして、7人は改善し、5人は維持することができた。約63%が人工

透析に移らずに済んだ。重症化し人工透析になると、ひとりあたり600万円前後の医療費がかかるため、地道に取り組んで行く。



▲健診前の問診の風景

こんな質問もしました

○待機児童数はどの様に推移しているか。